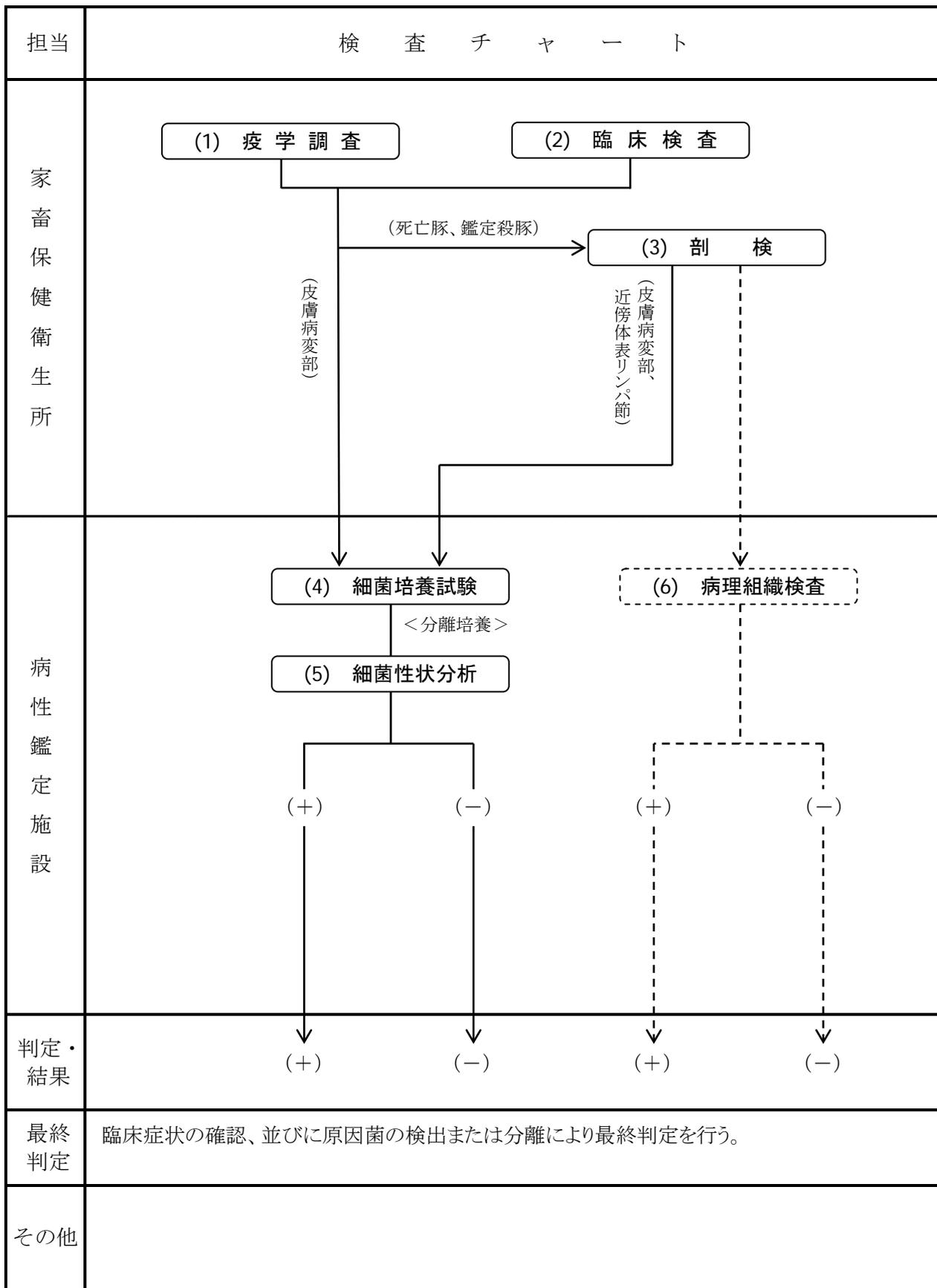


90 滲出性表皮炎（滲出性皮膚炎、スス病）



→類似疾病検査

- ① パラケラトーシス(不全角化症、錯角化症) ② 豚痘 ③ 湿疹 ④ ビオチン欠乏症

○ 病原体: *Staphylococcus hyicus* subsp. *hyicus*, *S. aureus*, *S. sciuri*

(1) 疫学調査

- ① 発生は1腹の同腹豚を単位とし、ときに1腹全頭に発生する。
- ② 哺乳豚(特に10～21日齢)に好発する。
- ③ 年間を通じて発生するが、4～10月の比較的温暖な季節に多発する。
- ④ 発病率は10%程度であるが、一群の哺乳豚が100%発病することもある。死亡率は20%前後で、希に80%以上のこともある。

(2) 臨床検査

- ① 元気消失、食欲低下、脱水症状
- ② 皮膚病変が眼瞼、耳翼、頭部、頸部、下腹から全身に波及する。
- ③ 全身の表皮、被毛に多量の粘稠な脂性滲出物が膠着し、塵埃などが付着することにより体表が褐色～黒褐色となり痂皮を形成する。全身の表皮が著しく肥厚し所々に亀裂が認められる。
- ④ 慢性化したものは一般的に予後不良。耐過豚も著しく発育が遅延する。

(3) 剖 検

- ① 高度の脱水症状と衰弱
- ② 全身の皮膚の肥厚
- ③ 体表リンパ節の水腫性腫脹および充出血

(4) 細菌培養試験(分離培養)

- ① 皮膚病変部および近傍の体表リンパ節からの材料を血液寒天培地に塗抹し、37℃で20～24時間培養する。*S. hyicus* subsp. *hyicus* は非溶血性白色コロニー、*S. aureus* は溶血性白～黄色コロニー、*S. sciuri* は溶血性白～卵黄色コロニーを形成する。
- ② 選択分離培地を用いて37℃で20～24時間培養する。*S. hyicus* subsp. *hyicus* は直径1～1.5mmの白色コロニーを形成し、周囲に混濁

帯がみられる。

(5) 細菌性状分析

(分離菌の性状)

菌種	溶血性	D N a s e	コアグララーゼ	クラシピンゲ フアクター
<i>S. hyicus</i> subsp. <i>hyicus</i>	—	+	d	—
<i>S. aureus</i>	+	+	+	d
<i>S. sciuri</i>	—	+w	—	—
<i>S. epidermidis</i>	—	—	—	—

d: 菌株中の16～84%が陽性、w: 弱陽性あるいは弱発育

(6) 病理組織検査

- ① 発病初期は表皮の急性滲出性炎がみられ、経過が進むと壊死性炎が深層部に波及する。
- ② 表皮表層に球菌塊を含む、錯角化による好酸性の細胞崩壊物が層状に堆積し、これらは毛包内にも蓄積する。
- ③ 表皮有棘細胞の増殖(棘細胞症)および空胞化
- ④ 表皮細胞の壊死・剥離、真皮における充血および組織球・好中球の浸潤

その他:

(選択分離培地の組成)

ペプトン	5g
肉エキス	1g
酵母エキス	3g
塩化ナトリウム	5g
CaCl ₂ ・2H ₂ O	0.1g
KSCN	30g
寒天	15g
Tween 80	10ml
蒸留水	1,000ml
pH 7.4	
121℃、15分間滅菌する。	

(参考文献)

- 清水 晃: 豚病学(柏崎 守ら編)、第4版. 319-322、近代出版、東京(1999).
- Frana, T.S. In: Diseases of swine (Zimmerman, J.J. et al. eds.), 10th ed. 834-840, Wiley-Blackwell, Iowa (2012).